

A保育園での風疹アウトブレイク

飯塚節子、和田美江子、森嘉生¹⁾、伊東宏明²⁾、中島一敏^{3) 4)}

1) 国立感染症研究所ウイルス第三部第二室、2) 国立感染症研究所 FETP、
3) 国立感染症研究所疫学情報センター、4) 東北大学大学院内科病態学講座

第 62 回日本ウイルス学会学術集会 (平成 26 年 11 月 10 日～12 日 : 横浜市)

2013 年 4 月～6 月、島根県内の A 保育園(園児数 94 名)で父親の風疹罹患を端緒とした風疹の集団発生があり、遺伝子検査および抗体検査から 24 名の風疹ウイルス感染発病者(園児 16 名、保育園職員 1 名、家族 7 名)が確認された。園児 16 名中 12 名は麻疹風疹混合ワクチン(MR ワクチン)を 1 回接種(1 名は接種後 3 週間)しており、集団発生の要因を検討するために発病者のウイルス学的検査を実施した結果、集団発生から検出されたウイルスは遺伝子型 2B で E1 領域の遺伝子解析から同時期に県内さらに国内で流行していたウイルスと同一のものと考えられた。MR 接種歴の患児はワクチンによる何らかの免疫応答があり、臨床症状も軽い例が多かったが、排出ウイルス量は未接種者と変わらず感染源となっていた。